



2006年チェンマイ国際園芸博覧会
Royal Flora Ratchaphruek 2006

日本国屋外出展日本庭園報告書

平成19年3月



ロイヤルフローラーチャブルック2006
日本庭園共同出展実行委員会

目次

はじめに 国土交通副大臣	1
ロイヤル フローラ ラーチャブルック 2006 日本庭園共同出展実行委員会会長	2
記録写真	3
2006 年チェンマイ国際園芸博覧会の概要	7
コラム 博覧会基本情報 博覧会開催都市「チェンマイ」の基本情報	
日本国屋外出展の参加	9
コラム 日本国参加出展の意義	
出展日本庭園	10
・庭園計画	
・庭園のテーマ	
コラム 自然と共生する日本庭園	
・庭園の構成	
コラム 庭園材料の植物と石	
・庭園工事	
・庭園管理	
・補修工事	
コラム 大賀ハス	
行催事	18
・開会式	
・ジャパン・フェスティバル	
・閉会式	
展示及び運営	26
・庭園解説及びパンフレット配布	
・映像展示	
・接客対応	
・庭園案内	
コラム 会期中のVIP訪問	

国際庭園コンテスト	3 0
博覧会後の日本庭園	3 0
日本庭園出展の広報	3 2
日本庭園出展の体制	3 3
・ロイヤル フローラ ラーチアブルック 2006 日本庭園共同出展実行委員会	
・屋外出展委員会	
・海外日本庭園委員会	
日本庭園共同出展実行委員会 事業収支（見込み）	3 5
共同出展団体及び協力企業等一覧	3 6

はじめに

2006 チェンマイ国際園芸博覧会への 日本国政府出展

国土交通副大臣 渡辺 具能



日本国政府は、過去海外で開催された国際園芸博覧会に、1984年イギリス リバプール、1992年 オランダ ハーグ・ズータメア（フロリアード1992）、1999年中国 昆明、2002年オランダ ハールレマミア（フロリアード2002）、2003年ドイツ ロストック（IGA2003）と参加し、日本庭園を出展展示してまいりました。

このたびのタイ王国チェンマイ市で開催された国際園芸博覧会「2006年チェンマイ国際園芸博覧会（Royal Flora Ratchaphruek 2006）」での屋外展示出展は、国土交通省ほか33の地方公共団体並びに緑関係団体と共同出展実行委員会を構成して、約1500㎡の池泉回遊式の日本庭園を出展したものです。

出展した日本庭園は、日本の美しい風景を凝縮して表現した池泉回遊式の庭園で、我が国の伝統的な造園技法を用いるとともに、随所に、我が国とタイ王国との関係を表す工夫を凝らしました。例えば、プミポン国王陛下のご在位60年及び誕生80年のお祝いをあらわす工夫です。池の中に設けられた鶴亀をあしらった中島は長寿の象徴であり、流れの脇に据えられた手水鉢には、京都龍安寺にある著名な手水鉢と同じく「吾唯足知」（吾れ唯だ足ることを知る）と刻印されていますが、これは、国王陛下が推奨されている「足るを知る経済（Sufficiency Economy）」を念頭においたものです。

また、私も国土交通省代表として参加させていただいた2007年1月13日の「ジャパンデー」では、日本庭園や、博覧会場内の野外ステージ「グランドアンフィシアター」を舞台として、日本の太鼓や静岡県等の郷土芸能、日本の祝祭を演出する縁日など、多彩なイベントを繰り広げ、地元タイ国民の方々との友好を深めることができました。

さらに、32カ国が出展参加した国際庭園コンテストでは最高得点を獲得し、屋外庭園1000㎡以上の部門において、「最高榮譽賞」を受賞することができました。

本博覧会へのわが国の参加目的「わが国の世界に誇り得る園芸及び造園技術を紹介し、わが国の文化的側面について国際的な理解を得る」は、このような成果により十分に達成されたものと考えられ、また、博覧会終了後も現地に残される日本庭園がタイの方々によって末永く守り育てられることにより、日タイの友好関係はより一層強固なものとなるものと確信しております。

本博覧会への日本国政府出展にあたり、共同出展団体の皆様をはじめ、関係各位に多大なご尽力をいただきましたことに、心より御礼を申し上げます。

はじめに

ロイヤル フローラ ラーチャプルック 2006
日本庭園共同出展実行委員会 会長 望月 薫雄



「2006年チェンマイ国際園芸博覧会 (Royal Flora Ratchaphruek 2006)」への日本国の屋外出展は、アジアで開催されたA1クラスの国際園芸博覧会としては、1999年に開催された「中国‘99昆明世界園芸博覧会」に続く2番目の出展となりました。

日本とタイ王国は永い友好の歴史を持ち、2007年には日タイ修好120周年を迎え、また、日本の皇室とタイ王国の王室は、親密な関係にあります。そうした中、タイ王国政府からの強い要請を受け、国土交通省と33の地方公共団体及び縁関係の法人が共同出展実行委員会を設け、約1500㎡の日本庭園を出展いたしました。

出展した日本庭園は、「日本の美しい風景」を表現することに主題をおき、日本を代表する「富士山」を主景とし、滝や流れ・池、そしてアジアに共通する風景の棚田を模した「段々畑」を取り入れながらの伝統的な手法に則ったものといたしました。タイ王国の国民にとっても、どこか親しみがある中に、異国日本の美しい風景としての日本庭園を観賞いただけるようにいたしました。

会期中のジャパン・フェスティバル (ナショナルデー) には、この日本庭園などを舞台に、静岡、沖縄と、チェンマイ市と姉妹都市の魚津の、それぞれの郷土芸能や、太鼓、餅つき、野点など、日本独自の文化や、タイと共通性のある文化などをご紹介いたしました。日本庭園に来場されたタイの皆様には、日本の文化を体験していただき、庭園の景色とあわせて、日本を深く理解していただけたものと自負いたしております。

また、今回の博覧会開催の趣旨 (国王陛下への慶祝) に鑑み、日本庭園の中に様々な設えを工夫いたしました。そのひとつとして、2000年の時を経て開花した「大賀ハス」の展示を行いました。蓮は、仏教国タイでは神聖な花として大切にされておりますが、博覧会開会前に日本庭園の池に植えた「大賀ハス」は、残念ながら会期中に開花を見ることはできませんでした。日本庭園は、博覧会終了後もタイ王国政府農業・共同組合省の農業リサーチセンターが、出展した姿のまま大切に維持管理されることとなっておりますので、タイの気候からは今春から初夏には、美しい花を咲かせてくれるものと期待しております。

こうした、様々な話題を提供した日本庭園は、国際庭園コンテストで「最高荣誉賞」を受けることができました。こうした多くの成果が得られた今回の出展は、共同出展実行委員会の皆様の惜しみないご努力とご協力の賜物であり、出展にご協力いただいた日本企業の各社と団体の皆様、そして現地チェンマイでは、日本人会や長期滞在者の会など、現地に在住されている日本人の方々など、数多くの皆様に支えられてのことと、深く感謝を申し上げますとともに、日本庭園の出展展示が、無事終了できましたことに厚く御礼申し上げます次第です。

記録写真



築山（富士山）と池



入口（冠木門と春日灯籠）



休憩舎窓からの景



滝組と霧



休憩舎



博覧会場（ロイヤルパビリオン）



博覧会場



オランダ庭園（1000㎡以上 2位）



南アフリカ庭園（1000㎡未満 1位）



中国庭園（1000㎡以上 3位）



ベルギー庭園（1000㎡未満 2位）



ブータン庭園（1000㎡未満 3位）



チェンマイ市内



開会式式典



ジャパンデー式典



閉会式式典

ジャパンデー催事(ステージ)



連獅子「慶祝の舞」天鼓



日本の着物「十二単・文金高島田」



「沖縄伝統芸能」

ジャパンデー催事(日本庭園)



祝い餅つき



給細工



書道



連獅子「慶祝の舞」天鼓



コンテスト賞状「最高栄誉賞」



庭園寄贈感謝状

2006年チェンマイ国際園芸博覧会の概要

名称：ロイヤル フローラ ラーチャブルック 2006
 性格：国際博覧会条約に基づく認定博覧会（A1）
 テーマ：「人類への愛」(To express the love for humanity)
 目的：プミポン国王陛下の在位60年及び生誕80歳のお祝い
 開催地：タイ王国チェンマイ市
 会期：2006年11月1日～2007年1月31日（92日間）
 実施主体：タイ王国農業・共同組合省
 会場規模：面積約80ha
 参加国：24カ国
 入場者数：3,840,468人
 （入場者想定数：200万人）



博覧会会場図

海外からの参加国一覧(常設展示)

国	屋外出展		備考	地図番号
	出展庭園	屋内出展		
バングラディシュ	1	1	—	41
ブータン	1	1	—	50
ブルネイ	—	—	1 屋内のみ	—
カンボジア	1	1	—	54
中国	1	1	—	52
インド	1	1	—	37
インドネシア	1	1	—	39
日本	1	1	1 「日本庭園」 1 「関西文化の庭」	42 53
ラオス	1	1	—	36
マレーシア	1	1	—	43
ネパール	1	1	—	38
イラン	1	1	—	62
カタール	1	1	—	40
ベトナム	1	1	—	44
ケニア	1	1	1	51
モーリタニア	1	1	—	48
モロッコ	1	1	—	57
ナイジェリア	—	—	1 屋内のみ	—
スウェーデン	1	1	1	58
南アフリカ	1	1	—	61
ベルギー	1	1	—	49
オランダ	1	1	—	45
スペイン	1	1	—	47
トルコ	1	1	1	46
合計数	22	23	6	



参加国出展位置図

月別入場者数

	11月	12月	1月	合計
月毎入場差数	999,879	1,446,183	1,394,406	—
累計入場者数	—	2,446,062	3,840,468	3,840,468
日平均入場者数	33,329	46,651	44,981	41,744
ピーク日入場者数	48,314(11月18日)	64,633(12月10日)	67,633(1月28日)	—
備考	50万人突破(11月18日)	100万人突破(12月1日)	300万人突破(1月14日)	
		200万人突破(12月22日)		

【博覧会基本情報】

- 博覧会開園時間：9：00～21：00（入場時間19：00、入場券販売18：00まで）
- 入場料：前売り券100パーツ、当日券200パーツ
（注：前売り券は入場日が指定され、会期中も販売）
- 博覧会総事業費：約30億パーツ（新聞報道）
- 会場内の移動手段：60人乗り連結バス、11人乗り電気カート
- 博覧会場の土地：王立農業リサーチセンター（農業・共同組合省所管）の一部
- 会場のゾーン：ロイヤル パビリオン ゾーン
国際庭園 ゾーン
企業庭園 ゾーン
タイ トロピカル ゾーン
エキスポセンター ゾーン

【博覧会開催都市「チェンマイ」の基本情報】

チェンマイ県の人口：約160万人

チェンマイ市の人口：約16万人

地勢：標高 300m

周囲を600～900m以上の山々が囲む。

概況：旧市街地は東西1.8km南北2kmの城壁と堀で囲まれ、その周りを新市街地が取り囲んでいる。チェンマイは、1296年にランナー王朝の都となったところから、都市としての歴史と発展が始まり、現在ではタイ北部の行政、経済、産業、文化の中心地となっている。教育機関もチェンマイ大学をはじめとする国公立、私立の大学等も多く、バンコクに次ぐ第2の都市と称されている。

気候：雨期（6月～10月頃）と乾期（11月～4月頃）がはっきりとしており、3月～5月が最も暑く40℃を超える日もある。反対に乾期の12月～1月には市内でも早朝に10℃を下回ることがある。

祭り：熱帯性気候のタイにあつて、地勢・気象の条件から、豊かな種類の花が見られ、1977年から毎年2月上旬には「花祭り」が行われている。

チェンマイ市街地図



チェンマイ市内

日本国屋外出展の参加

参加の要請

- 2004年10月 タクシン首相より小泉総理宛書簡にて参加の要請
- 2005年 9月 1日 タクシン首相来日
小泉総理との会談において参加要請があり、小泉総理より参加準備を進める旨の発言

博覧会の認定

- 2005年 9月27日 AIPH総会にて「A類1」の承認
- 12月 1日 BIE総会にて同博覧会認定

博覧会の参加申込

- 2005年 1月 9日 博覧会参加申込期日に間に合わせるため、(財)都市緑化基金名にて参加及び出展区画の申込書を送付

現地調査

- 2005年12月21日 参加出展準備に備え、屋内出展参加予定機関と合同で、博覧会
～26日 場等の情報収集のため(財)都市緑化基金役職員を現地に派遣
- 2006年 3月12日 日本国政府参加出展準備の一環として国交省から現地情報等収
～17日 集のため職員を現地に派遣

閣議了解及び政府代表の任命

- 2006年 3月31日 日本国政府参加出展に係わる閣議了解
外務省、農林水産省(屋内出展)、経済産業省、国土交通省(屋
外出展)が協力して準備
- 4月 4日 日本国陳列区域政府委員に在チェンマイ日本国総領事館 篠原
総領事を任命(閣議決定)

出展合意書

- 2006年 6月 8日 篠原総領事とタイ王国農業・共同組合省アディサック局長が日
本国出展の合意書に署名

屋外出展体制

- 2006年 2月15日 ロイヤル フローラ ラーチャブルック 2006 日本庭園共同出
展実行委員会を立ち上げ

【日本国参加出展の意義】

- わが国の世界に誇り得る園芸及び造園技術等を紹介することは、わが国の文化的側面について国際的な理解を得る上で極めて有益であること。
- タイ王国とわが国とは、長く友好関係にあり、2005年に行われた「愛・地球博」へも参加していた
だき、本博覧会に参加することは、両国の友好関係を一層強固にするものとなること。
- わが国園芸・造園分野における技術の一層の向上、高い国際的評価の確立、工事等の海外進出、国際
感覚豊かな人材の育成等の観点から、わが国園芸・造園関係者にとってきわめて意義深いこと。

出展日本庭園

庭園計画

出展区画の位置：日本国の出展位置は、国際庭園エリアの中でも、博覧会の中心施設である「ロイヤル バビリオン」に近く、背景に小高く盛られた地形と植栽、さらに遠景として遠く山並みを見渡せる位置に設けることとした。

出展区画の面積：標準の出展区画 500 m²を3区画分とり、約1500 m²の規模とした。

庭園の設計：株式会社ブレック研究所



出展区画位置図

庭園のテーマ

日本庭園の造園技術を駆使し、日本の美しい風景を、限られた空間の中に凝縮して再現し、自然と共に生きる姿を伝える。

【自然と共生する日本庭園】

日本人は古来、自然からの恵みと、自然からの脅威を受ける中で、自然に対する感謝と畏怖の念を抱き、人智を超えた力を感じてきました。そうした自然へ向き合う態度は、自然を敬い、自然と共に生きる生活や価値観を培ってきました。

庭園の中にも、こうした価値観を根底にしつつ、美しい日本の自然景観をモチーフに、自然と共生する姿を凝縮して、日本庭園という自然との共生の姿を理想郷として作り出しています。

庭園の構成

様式：池泉回遊式の庭園とし、庭園の池の周りを巡りながら、遷り行く庭の景色を演出した。

導入：日本庭園への入り口は、冠木門により空間の仕切りを行い、両側を高生垣風の植栽で、園路は直線に延段風の舗装とし、正面に春日燈籠を置き視線を止める演出を行った。

建物：導入部から視線を転じた先に休憩舎を設け、休憩舎の窓から垣間見える庭の姿を見せることで、庭への期待感を高め、休憩舎の中から、ゆっくりと庭全体の景色を觀賞できるような演出とした。

主庭：日本の美しい代表的な風景である富士山をモチーフとした芝山（築山）を配し、これを水面越しに觀賞するよう手前に池を設けた。

石組：池の周囲の石組み、池の中への亀島・鶴島に見立てた石の配置、池に注ぐ流れと滝口の石組みのほか、区域の正面（博覧会会場園路側）や段々畑の野面積み、崩れ積みなど多様な手法も紹介した。

垣根：博覧会会場園路からの視線は、独特な形態の松明垣で仕切り、その他にも竹穂垣、建仁寺垣、御簾垣などを要所に配し、日本庭園の造園技術を紹介した。

花壇：休憩舎から見た庭の最奥部に、段々畑状の3段の花壇を設け、国際園芸博覧会としての色彩の演出を加えた。段上には農家小屋風の縮小サイズの建物を設け、庭の景色のアイストップ効果を演出した。

夜間：博覧会の会場時間（21：00まで）に考慮し、春日燈籠、休憩舎、そして庭の景の中心である富士山のライトアップを行った。

【庭園材料の植物と石】

日本庭園の主要材料である樹木、芝生、草花などの植物は、大賀ハスなどの特殊なものを除き、すべて現地（タイ）で調達を行った。これは、博覧会終了後に日本庭園を残すこととしていたこと、管理は現地の方たちの手で行われることに配慮し、枯損等が出た場合も容易に調達できるようにしたものである。また、石組み等の石材も、チェンマイから約50km離れた採石場で採取されたものを用いた。



庭園計画図



庭園計画パーススケッチ



庭園工事

今回の出展日本庭園の施工期間は、従来の国際庭園博覧会に比べ、準備日数が少なく、集中的に行うこととした。

(庭園材料等)

- 日本庭園の雰囲気を作り出す植物について、日本産のものを持ち込むためには、日本国内において1年前からの植物隔離栽培が必要で、今回はその時間が無いことから、タイ産のものを現地調達で行うこととした。
- また、今回出展する日本庭園は、工事着手前から現地に残すことが予定されており、植物材料等を現地産のものを用いることにより、博覧会后において、現地の管理者の手で容易に維持管理ができるよう配慮した。
- そのため、植物及び石材の庭園材料の調達にあつては、慎重に吟味し、タイ産のものの中から極力日本的な樹形、形状、色彩等に配慮した。

(工事着手)

- 工事期間は、タイの気候では「雨期」にあたることから、十分な施工計画と、集中的な施工に心がけ、天候による工事の遅れが出ないように配慮した。
- 集中的な工事を行うため工事期間中は、海外での日本庭園建設工事に豊富な経験を有する造園技術者を含め3名の技術者が、チェンマイに滞在して工事を進めた。(滞在期間：6月から10月の約5ヶ月間)
- 日本庭園の工事着工は、他の海外庭園に比べ、6月上旬(技術者の常駐開始は6月7日から)といち早く行われた。

工事経過(2006年5月～10月：現場着工6月)

5月	準備工	・現地での植物材料、石材等の調達 ・現地での休憩舎等建築物の施工準備 ・土工事等の現地施工業者の選別
6月	基盤整備工	・敷地造成工 ・擁壁工(池流れ躯体工)
	施設整備工	・給水循環設備配管工 ・雨水排水設備工 ・電気設備配管工
7月	基盤整備工	・石積み工(敷地前面側境界) ・石積み工(段々畑自然石石積み)
	施設整備工	・給水循環設備、雨水排水設備工 ・電気設備配管工
	修景施設工	・池・流れ・州浜躯体工及び池・流れ自然石石組工
(7月9日～12日)		庭園材料・中間検査及び建築物部材工場検査)

庭園管理

博覧会会期中（2006年11月～2007年1月）の庭園管理は、通常の水遣り、除草等の維持管理作業のほか、花壇草花の植替え、芝刈り、池流れの清掃、枯損樹木の対応、園路砂利の補充、庭園設備（給排水、水循環、電気等）の保守及び利用者による被害対応などのため、造園技術者2名を派遣して、常に良好な状態を保てるよう配慮した。

その他、開会式、プミボン国王誕生日、正月、ジャパン・フェスティバルなど、特別な日のための庭園装飾も行った。

花壇植替え（会期中5回植替え：シャスターギク、スプレーギク）

1回目：11月12日

2回目：12月 3日（プミボン国王陛下の誕生日（12月5日）の装飾として花壇のキクを3段の黄色のグラデーションに植替え）

3回目：12月20日

4回目： 1月 8日（ジャパン・フェスティバルに備えての植替え）

5回目： 1月25日



黄色のグラデーションの花壇（12/3）



ジャパン・フェスティバル植替え（1/8）

特別な装飾

開会式：休憩舎入り口の壺に盛り花（生け花）を装飾（10月30日施工）

国王誕生日：休憩舎入り口の壺に盛り花（生け花）を装飾（12月4日施工）

正月：庭園入り口（冠木門）前に門松を設置（12月28日施工）

ジャパン・フェスティバル：休憩舎入り口の壺に、タイの桜を入れた盛り花（生け花）を装飾（1月12日施工）



門松



生け花

利用者対策及び枯損対策

枯損対策：11月 リュウキュウツツジ 2株 植替え
シラカシ類 1本 植替え
ハイビヤクシン 7株 植替え

利用者対策：段々畑花壇前、石橋付近、春日燈籠脇、裏門石組み付近の植栽は記念写真撮影のための踏み込み、あるいは石組み等への腰掛などにより、キク、リュウノヒゲ、ハイビヤクシンなどが踏み荒らされる被害が出た。この対策として、竹の波柵、人留め柵等を設置して対処した。(施工：11月26日)



波柵



人留め柵

補修工事

博覧会会期後の日本庭園の引渡しにあたって、補修工事を行った。補修にあたって博覧会後に管理を行う、タイ側の意向を打診したところ、現況のままで全て残してほしい旨の回答があった。しかし、日本庭園をできる限り良好な状態で維持ができるよう、以下の工事を行った。

施設撤去：霧発生装置の撤去

滝並びに溪谷の雰囲気演出するため、その周辺にミストを発生させていたが、結果として周辺樹木に根腐れ等の症状が出始めたことから、この装置は撤去することとした。

植栽の植替え：段々畑の草花（キク）については、その後も植替えが必要なことから、タイワンレンギョウを植え込み、管理の容易さを図った。

記念プレートの設置：日本庭園を、本博覧会に出展し寄贈することを記し、共同出展団体と、協力企業の名前を記したプレートを、休憩舎内の壁面に設置した。



植替え中の段々畑



記念プレート

施工及び庭園管理：箱根植木株式会社

【大賀ハス】

博覧会の開催趣旨に鑑み、2000年以上の時を経て開花した「大賀ハス」を、東京大学緑地植物実験所(千葉県・検見川)のご協力のもと、同実験所と千葉市公園緑地課から、大賀ハス等の根を分けていただき、日本庭園に植付けた。

大賀ハスは、1951年に大賀一郎博士(1883~1965年)が、千葉県検見川(現東京大学総合運動場)の泥炭層から発掘された推定2000年以前の古ハスの実を発芽育成し、翌年に開花させたものである。

花卉数は14~20枚、花径23~28cmの中・大型の一重咲種で、花色は鮮やかなピンク、花卉は細長く舟底型をし、開花期(日本)は6月下旬~7月中下旬ころまでの早咲性である。

日本庭園への植付けと育成に関しては、同実験所の南定雄技官のご指導を受けて行ったが、残念ながら会期中の開花は見られなかった。植付けは、9月上旬に試験的に鉢に、また池工事の完了を待って、10月2日に南技官も同行いただいて、池のハス田へ約50本の蓮根を植えた。会期終了時に、再度南技官にご同行いただき、状況等を確認いただいたが、環境への対応に時間を要したこと、今後の開花に期待できるとのことであった。また、「大賀ハス」による日タイ両国の末永い友好を祈念して、ハス田の脇には、大賀博士並びに阪本先生の言葉を記した記念碑を設置した。



大賀ハスの花



大賀ハスの植え付け(10/2)



記念碑

行催事

開会式

日本国出展開会式

日本国の開会式典は、屋外出展、屋内出展及び関西の出展3者が合同で、11月1日午前10時15分からチェンマイ市内のホテル「シェラトン」にて行った。式典は、日本国政府出展代表の在チェンマイ総領事館 篠原総領事の挨拶にはじまり、農林水産省 福井政務官、国土交通省 小山審議官及び兵庫県 井戸知事が、それぞれの出展を代表して挨拶を行った。その後、各代表者並びにAIPH 和田副会長、日本庭園共同出展実行委員会 望月会長らが加わったテープカットにより、日本国の出展展示が開始された。

開会式典後、代表団は博覧会場へ移動し、日本庭園の視察、関西文化の庭の視察、屋内展示ブースの視察が行われた。

日本国開会式典代表出席者

篠原勝弘 在チェンマイ総領事（政府代表）
福井 照 農林水産大臣政務官
小山亮一 国土交通省大臣官房審議官
井戸敏三 兵庫県知事
神田真秋 愛知県知事
望月薫雄 日本庭園共同出展実行委員会会長
畑中隆晴 （財）日本花普及センター理事長



開会式典での小山審議官の挨拶



開会式典 テープカット



日本庭園視察での記念写真

博覧会開幕式典

博覧会の開幕式典は、11月1日午後2時30分から受付並びに歓迎レセプションが行われ、日本側からの招待者枠での出席は、各出展代表が出席したほか、式典会場となった博覧会会場内のロイヤルパスでの式典参列者として30名の登録を行った。

開幕式典は、歓迎レセプションの後、4時30分にシリントン王女殿下が到着され、式典が開始された。式典終了後、シリントン王女殿下は、日本庭園をはじめとする博覧会場内の視察を行い、博覧会場内は式典の終了にあわせ、視察区域内の移動が禁止されるなどの規制がかかり、「日本庭園」で王女殿下をお迎えするメンバーは、事前に

日本庭園で待機した。「日本庭園」には午後5時30分過ぎに到着され、お出迎え並びにご案内を行い、視察時間は約15分間に及んだ。王女殿下来園のニュースは、翌日の地元新聞に写真掲載で大きく取り上げられた。

シリントン王女殿下日本庭園お迎えメンバー

篠原勝弘 在チェンマイ総領事（政府代表）
小山亮一 国土交通省大臣官房審議官
和田新也 AIPH副会長（庭園ご説明）
角南勇二 国土交通省緑地環境推進室長
望月薫雄 日本庭園共同出展実行委員会会長



日本庭園来園を伝える地元新聞



日本庭園来園を伝える地元新聞

ジャパン・フェスティバル

日本国出展に係わるナショナルデーは、1月13日から17日までの5日間にわたり「ジャパン・フェスティバル」として行った。また、初日のオープニングの行催事は、博覧会側で決められたフォームに従い、「カントリー プレゼンテーション（マスコミ向けの各国の広報）」「出展庭園等の視察」「オープニング セレモニー」「レセプション」として行われた。

カントリー プレゼンテーション

出展各国のナショナルデー開始にあたって、国の広報をマスコミに向け行ったもので、1月13日午後1時45分から博覧会場内のコミッションナー クラブにて行った。

カントリー プレゼンテーション

Visit JAPAN 映像紹介
プレゼンテーション（篠原総領事）
質疑応答



篠原総領事によるプレゼンテーション

出展庭園等の視察

出展庭園の視察に先立ち、博覧会会場のVIPゲート（Chang Gate）にて、日本側の代表となる渡辺国土交通副大臣が、午後2時30分、博覧会側の出迎えを受けて会場へ入場した。

出展区画の視察は、屋内展示の代表団らとも合流し、23名の視察団で、まず屋内展示ブースからはじまり、関西文化の庭、日本庭園と日本国の3箇所の出展展示をまわった。



VIPゲートからの入場



日本庭園の視察

視察メンバー（セレモニー出席代表者）

小林秀明 在バンコク日本国大使
篠原勝弘 在チェンマイ総領事（政府代表）
タイ王国政府農業・共同組合省（5名）
渡辺具能 国土交通副大臣夫妻
峰久幸義 国土交通審議官
小川陽一 国土交通省公園緑地課長
吉田岳志 農林水産省大臣官房審議官
谷津義男 フラワー議連会長夫妻
宮路和明 フラワー議連事務局長夫妻
石川嘉延 静岡県知事夫妻
芦川清司 静岡県議会議長
安居祥策 日タイ修好120周年記念事業実行委員会委員長
望月薫雄 日本庭園共同出展実行委員会会長
佐藤安弘 （財）日本花普及センター会長
田村 計 兵庫県県土整備部まちづくり局長
富田祐次 （財）海洋博覧会記念公園管理財団理事長

オープニング セレモニー

オープニングのセレモニーは、午後4時から、博覧会場内のグランド アンフィシアター（野外ステージ）にて開催した。なお、この中で日本庭園共同出展実行委員会 望月会長より、「日本庭園」の寄贈文書をルンルアン農業・共同組合省副大臣に贈呈した。

オープニング セレモニー プログラム

歓迎挨拶	ルンルアン	タイ王国農業・共同組合省 副大臣
主催者挨拶	篠原総領事	渡辺国土交通副大臣 吉田農林水産省大臣官房審議官
国旗掲揚・国歌演奏		
プレゼント交換	渡辺副大臣からルンルアン副大臣へ押絵羽子板贈呈	
庭園寄贈	日本庭園	望月会長よりタイ王国副大臣へ寄贈文書贈呈
	関西文化の庭	田村局長よりタイ王国副大臣へ寄贈文書贈呈
記念写真撮影		
カルチャーショー挨拶	安居日タイ修好実行委員会委員長	
カルチャーショー	東京打撃団 日本の太鼓演奏	



ルンルアン副大臣挨拶



渡辺副大臣挨拶



日本庭園寄贈



会場風景



カルチャーショー

オープニング記念レセプション

ジャパン・フェスティバル開催の記念レセプションを、セレモニー終了後チェンマイ市内シェラトンホテルの野外会場にて、日本・タイ両国並びに海外からの庭園出展国代表等約200名をお招きして、オープニングの記念レセプションを行った。

オープニング記念レセプション プログラム

主催者挨拶	小林大使 渡辺国土交通副大臣
タイ王国代表挨拶	ルンルアン副大臣
鏡開き	
乾杯	谷津 フラワー議連会長
歓談	
アトラクション	フラワーアレンジメント せり込み蝶六（富山県魚津市※の郷土芸能） ※魚津市：チェンマイ市との姉妹都市

鏡開きメンバー

小林秀明	在バンコク日本国大使
ルンルアン	農業・共同組合省副大臣
篠原勝弘	在チェンマイ総領事（政府代表）
ブラサート	農業・共同組合省上席顧問
渡辺具能	国土交通副大臣
峰久幸義	国土交通審議官
谷津義男	フラワー議連会長
宮路和明	フラワー議連事務局長
吉田岳志	農林水産省大臣官房審議官
和田新也	AIPH副会長
石川嘉延	静岡県知事
芦川清司	静岡県議会議長
安居祥策	日タイ修好120周年記念事業実行委員会委員長
望月薫雄	日本庭園共同出展実行委員会会長
佐藤安弘	（財）日本花普及センター会長

ジャパン・フェスティバル行催事

ジャパン・フェスティバル期間中には、日本庭園共同出展実行委員会の構成団体である静岡県より日本庭園内で「三社祭礼囃子」と3日間にわたる「静岡茶」の呈茶、（財）海洋博覧会記念公園管理財団の「沖縄伝統芸能」をステージで行った。チェンマイ市と姉妹友好都市提携を結んでいる富山県魚津市の「せり込み蝶六」の踊りも、日本庭園内で行った。また、日本庭園出展に係わる催事として、連獅子と日本太鼓の「慶祝の舞」、正月行事とタイでも行われている餅つきを「祝い餅つき」として行ったほか、在チェンマイ日本人会並びに長期滞在者の会の皆様のボランティア活動協力で、日本の風物



鏡開き

と賑わいを演出する「縁日」催事も5日間通して日本庭園内で行った。ジャパン・フェスティバル最終日には、国際伝統芸術家協会のボランティア催事として、ステージでは日本の着物ショーと、日本庭園では野点を披露した。

ジャパン・フェスティバル催事 プログラム

1月13日

野外ステージ 日本の和太鼓演奏（東京打撃団）
日本庭園 静岡茶の呈茶（同時に富士山の絵葉書配布）
三社祭礼囃子（静岡の郷土芸能）
縁日（飴細工、剣玉、独楽回し）

1月14日

野外ステージ 沖縄伝統芸能（沖縄エイサーなど／大太陽）
日本庭園 静岡茶の呈茶（同時に富士山の絵葉書配布）
せり込み長六（魚津市の郷土芸能）
縁日（飴細工、剣玉、独楽回し）

1月15日

野外ステージ 慶祝の舞（太鼓・連獅子／DaDaDaDAN-天鼓）
日本庭園 静岡茶の呈茶（同時に富士山の絵葉書配布）
祝餅つき（餅つきパフォーマンス／めでたや）
縁日（飴細工、剣玉、ヨーヨー釣り）

1月16日

日本庭園 慶祝の舞（太鼓・連獅子／DaDaDaDAN-天鼓）
縁日（書道、折り紙、飴細工、剣玉、ヨーヨー釣り）

1月17日

野外ステージ 十二単着付けショー（国際伝統芸術家協会）
日本庭園 野点（国際伝統芸術家協会）
縁日（書道、折り紙、独楽回し、剣玉、ヨーヨー釣り）

※このほか、屋内展示ブース並びに関西文化の庭においても、会期中様々な催事を繰り広げ、多様な日本文化の紹介を行った。



三社祭礼囃子



沖縄伝統芸能



せり込み蝶六

閉会式

博覧会は、2007年1月31日に92日間の会期の幕を閉じた。

博覧会閉幕式典

博覧会の閉幕式典は、博覧会場内のラーチャブルックプラザに仮設のステージを設け、涼しくなったからの午後4時30分から行われた。式典の冒頭では、感謝状や、コンテストの表彰なども行われ、暗くなつてからはステージ催事や花火の打ち上げなども行われた。

博覧会閉幕式 プログラム

招待者・受賞者受付

カクテルパーティ

主催者挨拶 タイ王国農業・共同組合省 アディサク局長

感謝状授与・コンテスト受賞者表彰

AIPH講評 フェーパー会長

BIE講評 ロザータレス事務局長

AIPH旗・BIE旗移譲及び国旗降納

ステージパフォーマンス 伝統舞踊等

閉会挨拶 タイ王国農業・共同組合省 シーラ大臣

国王賛歌斉唱

打ち上げ花火

式典招待者

篠原勝弘 在チェンマイ総領事（政府代表）

小山亮一 国土交通省大臣官房審議官

角南勇二 国土交通省緑地環境推進室長

福田豊治 農林水産省果樹花き課長

田村 計 兵庫県県土整備部まちづくり局長



主催者挨拶



コンテスト表彰



ステージショー

日本国出展解散式

日本国出展の解散式を、閉会の翌日2月1日に、博覧会場に程近い「センカムテラス」において、屋内出展と合同で開催した。解散式には、ジャパン・フェスティバルの日本庭園「縁日」にご協力いただいた、在チェンマイ日本人会、長期滞在者の会の皆様をご招待して、総領事館をはじめ、関係者約50名の方々に出席いただいた。

解散式プログラム

挨拶	篠原総領事 小山審議官
乾杯	角南室長
歓談	



篠原総領事挨拶



小山審議官挨拶



角南室長乾杯



歓談風景

展示及び運営

日本庭園出展に係わる展示等としては、休憩舎に庭園を解説するパネルの展示及び同パンフレットの配布と、共同出展団体にご提供いただいた各地のポスター展示及びパンフレットの配布、さらにDVDによる映像（映像機器は「SONY」より提供）での日本の風景等の紹介を行った。また、会期中には、日本からの来訪者をご案内する接遇、日本庭園の一般来場者に対する誘導・案内なども行った。

庭園解説及びパンフレット配布

パネル展示

庭園解説は、出展した「日本庭園」の概要説明及び共同出展団体並びにご協力企業名を記したパネルを作成し、休憩舎内の壁面2面を使って展示した。また、屋外には「大賀ハス」「緑化壁パネル」「水改質活性化装置」を紹介したパネルを掲出した。



庭園解説パネル



団体名・企業名紹介
パネル



大賀ハス説明パネル

また、休憩舎の一角は、共同出展団体からご提供を受けたポスターの展示スペースとし、日本の各地の風景や文化を紹介した。ご提供いただいたポスターは、19団体、21種21枚で、これを会期中ローテーションを組んで展示した。なお、ジャパン・フェスティバル期間中（1月10日～17日）は、ご提供いただいたポスターのうち、日本の自然風景・歴史的風景、文化紹介などのものに限って展示した。

ポスターの展示ローテーション

前半（11月1日～12月12日 42日間）

愛知県、東京都、大阪府、静岡県、国交省、名古屋市、（財）国際花と緑の博覧会記念協会、大阪市、広島市、（財）公園緑地管理財団、（財）海洋博覧会記念公園管理財団、本田技研工業、（社）日本公園施設業協会：13団体13枚：順不同

後半（12月13日～1月9日、1月18日～1月31日 42日間）

愛知県、仙台市、静岡県、国交省（2枚）、（財）国際花と緑の博覧会記念協会、神戸市、北九州市、（財）公園緑地管理財団、（財）海洋博覧会記念公園管理財団、千葉県、京都市、赤塚植物園：12団体13枚：順不同

ジャパン・フェスティバル期間（1月10日～17日 8日間）

愛知県、東京都、大阪府、静岡県、国交省、名古屋市、（財）国際花と緑の博覧会記念協会、大阪市、広島市、（財）公園緑地管理財団、（財）海洋博覧会記念公園管理財団、千葉県、京都市：13団体13枚：順不同

パンフレット配布

出展日本庭園を解説するパンフレット3万部を作成し、日本庭園内で会期中配布を行った。配布は平日200部、休日300～500部を目途に配布し始めたが、毎日不足状態が続き、会期中（12月24日）から簡易版（A3版1枚もの）を増刷し、会期後半に備えた。

日本庭園解説パンフレット目次

自然と共生する日本庭園
庭園の観賞ポイント
国王陛下への慶祝
緑化の新技术
ジャパン・フェスティバル
大賀ハス「蓮は平和の象徴也」
日本国の出展（博覧会場地図）
共同出展実行委員会構成団体名及び協力企業名



日本庭園解説パンフレット

共同出展団体並びに協力企業からのパンフレットとして、17団体から提供され、保管場所等のことから、1団体3000部までとして、配布団体を3グループに分け、1日50～100部程度を4週間単位で配布した。

各団体パンフレット配布

Aグループ（11月1日～11月28日配布）

静岡県、愛知県、大阪府、名古屋市、(社)日本公園施設業協会、本田技研工業

Bグループ（11月29日～12月26日配布）

千葉市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市

Cグループ（12月27日～1月31日配布）

千葉県、仙台市、福岡市、(財)海洋博覧会記念公園管理財団、(社)ランドスケープコンサルタンツ協会、赤塚植物園

注) A・B両グループは、ジャパン・フェスティバル期間中（1月10日～1月17日）も配布した。

映像展示

映像機器は、バンコク日本人商工会議所を通じ、現地の「SONY」よりDVD再生装置並びにディスプレイを、会期中無償貸与いただき休憩舎内に設置した。DVDソフトは、共同出展団体のうち11の団体から12種のソフトのご提供をいただき、会期中の毎日を午前（9時～13時）と午後（13時～16時30分）に分け、1団体が午前と午後とりまぜて15回の放映を行った。ただし、ジャパン・フェスティバル期間（1月13日～17日）は、日本国を紹介するものとして「YOKOSO JAPAN」及び「VISIT JAPAN」のソフトを放映した。

DVDソフト上映団体

国交省 2種 (「YOKOSO JAPAN」「VISIT JAPAN」)
静岡県、名古屋市、大阪府、(財)国際花と緑の博覧会記念協会、
大阪市、神戸市、北九州市、千葉県、札幌市、(財)海洋博覧会記
念公園管理財団 (順不同)



DVD放映状況

接遇対応

接遇申請書に基づき、博覧会場で接遇対応を行った共同出展をはじめとする団体は、12団体あった。接遇は、博覧会場のゲートにて待ち合わせ、会場内の説明を行った後、「屋内展示ブース」「関西文化の庭」「日本庭園」をご案内し、日本庭園からは各団体の自由見学を原則として行った。

接遇対応団体

- 11月 4日 (社)日本公園施設業協会のツアー団体
- 11月15日 名古屋市
- 11月27日 (社)日本造園建設業協会・(社)ランドスケープコンサルタンツ協会・(財)日本造園修景協会のツアー団体
- 12月 1日 (株)赤塚植物園
- 12月 2日 (財)日本自然保護協会
- 12月 8日 名古屋学院大学
- 1月13日 (財)都市緑化基金・(社)日本公園緑地協会のツアー団体
- 1月14日 (財)都市緑化技術開発機構のツアー団体
- 1月16日 (社)道路緑化保全協会
- 1月18日 (社)日本造園組合連合会山口県支部・(社)山口県造園建設業協会・(社)日本造園建設業協会山口県支部のツアー団体
- 1月25日 小松市造園業組合のツアー団体
- 1月27日 NPO国際造園研究センター

庭園案内

会期中は、3名の現地雇用(日本人)スタッフを配置し、1日(8時30分~16時30分)に1名が勤務するようローテーションを組み、開場前の清掃、パンフレットの補充、映像ソフトの差し替え、来場者の案内・誘導及び質問等への対応などを行った。

行催事・展示・運営 株式会社ジェイコム



スタッフによる案内風景

【会期中のVIP訪問】

会期中に「日本庭園」を訪れたVIPは、以下の通りであった。

- 12月16日 タイ王国プリンセス
- 12月29日 タイ王国皇太子ご家族
- 1月15日 トヨタ自動車名誉会長夫妻
- 1月17日 岩屋外務副大臣
- 1月30日 タイ王国チュワン元首相

注) 開会式、ジャパン・フェスティバル、閉会式以外の期間で、業務日報（庭園案内のスタッフが会期中毎日記録）に記録されたもの。

国際庭園コンテスト

国際園芸博覧会における庭園コンテストは、AIPHの規定に則り、本博覧会においても行われた。コンテストの部門は最終的に、屋外の1000㎡以上の庭園、屋外の1000㎡未満の庭園及び屋内展示の3部門が設定された。屋外庭園の審査は、海外からの出展庭園全て23庭園を対象に、9名の国際審査団により、1回目は博覧会開始直前の10月31日、2回目は博覧会終了直前の1月28日に行われた。日本庭園は、この2回の審査で最高得点を獲得し、1000㎡以上庭園部門第1位の「最高栄誉賞」として表彰を受けた。表彰式は、1月31日の博覧会閉幕式典の中で行われ、国土交通省の小山審議官が受賞の盾を受け取った。なお、農林水産省を中心に出席していた屋内展示も、第1位を獲得し、日本国の出展はダブルで受賞した。

国際コンテスト受賞順位

	屋外庭園1000㎡以上	屋外庭園1000㎡未満	屋内展示
第1位 「最高栄誉賞」	日本 (日本庭園)	南アフリカ	日本
第2位 「優秀栄誉賞」	オランダ	ベルギー	ブルネイ
第3位 「一席」	中国	ブータン	ナイジェリア



受賞写真—小山審議官



最高栄誉賞 賞状



最高栄誉賞 盾

博覧会後の日本庭園

出展した日本庭園については、博覧会主催者側から2006年2月末日を期限として、寄贈の有無について意思表示を求められたことから、正式な参加合意書の取り交わし前ではあったが、日本庭園共同出展実行委員会会長名にて、寄贈の意思がある旨の文書を博覧会主催者であるタイ王国農業・共同組合省バンポット事務次官宛提出した。

この文書に対し、タイ王国農業・共同組合省アディサク局長より、正式な参加合意書の取り交わし後の2006年7月26日付文書にて、篠原総領事宛に寄贈への謝意と共に

博覧会の貴重な財産として庭園の寄贈を受諾する文書が送られてきた。

正式な「日本庭園」寄贈は、「関西文化の庭」と共に、2007年1月13日のジャパン・フェスティバル オープニング セレモニーの中で、日本庭園共同出展実行委員会 望月会長よりタイ王国農業・共同組合省 パンボット事務次官宛の寄贈文書を~~ルンダラ~~副大臣に手渡した。



寄贈文書



寄贈に対する感謝状



望月会長より寄贈文書の贈呈

博覧会場については、中心施設であった「ロイヤル パビリオン」が博物館として、海外からの出展庭園等が公園に、また、トロピカルガーデンエリアは研修施設として、公開利用されることとなっている。これらの施設の管理については、博覧会終了時点では最終的な体制が確立されておらず、当面は博覧会主催者であるタイ王国農業・共同組合省が所管する農業リサーチセンターが各国庭園の管理を行っていくとのことである。（注：博覧会敷地は農業リサーチセンターの土地であり、博覧会会期中及びその後も土地管理者として管理する。）

日本庭園の維持管理については、博覧会後も良好な状態を保っていただくよう、博覧会閉幕前日の1月30日に、プラサート農業・共同組合省上席顧問及び直接の管理責任者であるウタイ農業リサーチセンター所長に、日本庭園内にて、管理マニュアルの贈呈並びに説明を行った。なお、このときに「大賀ハス」の育成についても、東京大学南枝官より、あわせて説明を行い、今後の開花に期待することとした。



1月30日 庭園引渡し打ち合わせ



管理マニュアル

日本庭園出展の広報

ホームページの開設

2006年チェンマイ国際園芸博覧会への「日本庭園」出展に関する情報の1つとして、日本庭園共同出展実行委員会の事務局である（財）都市緑化基金のホームページ上に2006年9月に開設した。また、共同出展団体等の紹介ページでは、共同出展団体の名称のほか、ご協力いただいた企業名の紹介も行い、それぞれにリンクをはった。

ホームページの項目

2006年チェンマイ国際園芸博覧会に日本庭園を出展

2006年チェンマイ国際園芸博覧会の概要

博覧会の概要

博覧会会場レイアウト

日本庭園出展区画位置

出展日本庭園の紹介

共同出展団体等の紹介

開催イベント概要

写真集

出展日本庭園の様子

開会式

ジャパン・フェスティバル

閉会式

屋内出展・関西出展

博覧会場へのアクセス



ホームページ

進捗ニュースの発行

博覧会場の工事着手にあわせ、2006年6月より共同出展団体並びにご協力企業に対し、月1回発行の「進捗ニュース」をメール等で情報提供し、博覧会開会前は、庭園工事の進捗状況や、博覧会開会式の前日などを、また、博覧会開始後はイベント実施の様子などをお伝えした。進捗ニュースは、2007年2月の第9号までの発行を行った。



進捗ニュース

日本庭園出展の体制

ロイヤル フローラ ラーチャブルック 2006 日本庭園共同出展実行委員会

今回の博覧会の出展にあたっては、国（国土交通省）を中心として19の地方公共団体と14の関係団体、あわせて33団体で共同出展実行委員会を構成して行った。

共同出展実行委員会委員名簿（平成19年3月現在）

会 長	望月 薫雄	(財) 都市緑化基金理事長
副会長	山村 善敬	静岡県都市住宅部長
副会長	金城 秀雄	(財) 海洋博覧会記念公園管理財団常務理事
委 員	角南 勇二	国土交通省都市・地域整備局緑地環境推進室長
	青山 俊行	千葉県県土整備部長
	伊藤 精美	東京都建設局公園緑地部長
	藤井 則義	愛知県建設部長
	荒木 美喜男	大阪府都市整備部公園課長
	千代 吉雄	札幌市環境局みどりの推進部長
	大崎 啓一	仙台市建設局百年の社推進部長
	三川 孝蔵	さいたま市都市局都市計画部長
	小川 信正	千葉市都市局公園緑地部長
	福井 和己	川崎市環境局緑政部長
	吉田 哲夫	横浜市環境創造局環境整備部長
	金井 宣雄	静岡市都市局都市計画部長
	森田 高尚	名古屋市緑政土木局緑地部長
	奥村 治男	京都市建設局水と緑環境部長
	藤野 充博	大阪市ゆとりとみどり振興局緑化推進部長
	割田 耕造	神戸市建設局公園砂防部長
	岩田 勇	広島市都市整備局緑化推進部長
	林 誠二	北九州市公園緑地部長
	植木 義文	福岡市都市整備局公園緑地部長
	山中 丈士	(財) 日本造園修景協会常務理事
	有路 信	(社) 日本公園緑地協会常務理事
	前田 博	(財) 日本緑化センター常務理事
	碓井 實	(財) 公園緑地管理財団常務理事
	坂本 裕彰	(社) 日本造園組合連合会専務理事
	大貫 誠二	(財) 都市緑化基金専務理事
	高橋 信行	(社) ランドスケープコンサルタンツ協会専務理事
	室澤 正孝	(社) 日本家庭園芸普及協会専務理事
	山本 教夫	(社) 日本公園施設業協会専務理事
	椎谷 尤一	(財) 都市緑化技術開発機構専務理事
	森高 正俊	(財) 国際花と緑の博覧会記念協会専務理事
監 事	小林 脩	(社) 日本造園建設業協会常務理事

共同出展実行委員会の開催経緯は、以下の通りである。

- 平成18年 2月15日 設立準備会
 (主な報告・審議事項) ・日本国出展の経緯、出展の体制及びスケジュール
 ・実行委員会会則
- 平成18年 2月15日 第1回委員会
 (主な報告・審議事項) ・事業計画、事業予算(暫定予算)

- 平成18年 7月 6日 第2回委員会
(主な報告・審議事項) ・経過報告、出展準備体制
・出展庭園整備計画、行催事計画、事業予算(修正予算)
- 平成18年10月20日 第3回委員会
(主な報告・審議事項) ・経過報告、大賀ハス、ホームページ、パネル等
・庭園整備状況及び維持管理、行催事計画、ポスター・パンフの配布等
- 平成19年 3月27日 第4回委員会(予定)
(主な報告・審議事項 案) ・経過報告、博覧会入場者数、コンテスト表彰
・庭園出展展示報告、行催事・運営報告、事業収支(見込み)、感謝状の贈呈、委員会の解散

屋外出展委員会

屋外出展委員会は、今回の日本庭園出展展示の質を一層高めることを目的に、専門識者等のご意見を伺う機関として設置し、博覧会開催前の準備段階では2回の委員会を開催した。

屋外出展委員会委員名簿(平成19年3月現在)

会 長	高原 慶一朗	(財)都市緑化基金会長
委 員	平野 侃三	東京農業大学名誉教授 海外日本庭園委員会会長
委 員	須磨 佳津江	学識経験、文化人
委 員	涌井 史郎	横浜桐蔭大学教授 元愛知博プロデューサー
委 員 (会長代行)	望月 薫雄	(財)都市緑化基金理事長 共同出展実行委員会会長
委 員	中島 正弘	国土交通省都市・地域整備局長
委 員	小山 亮一	国土交通省都市・地域整備局官房審議官
委 員	石川 嘉延	静岡県知事 共同出展実行委員会副会長団体代表
委 員	富田 祐次	(財)海洋博覧会記念公園管理財団理事長 共同出展実行委員会副会長団体代表

屋外出展委員会の開催経緯は、以下の通りである。

- 平成18年 4月28日 第1回委員会
(主な検討事項) ・委員会趣旨及び準備状況、博覧会の概要、出展日本庭園の計画概要、行催事等の基本的な考え方
- 平成18年10月13日 第2回委員会
(主な検討事項) ・出展庭園の整備状況及び会期中の花壇計画、出展庭園での展示配布物等、行催事計画案
- 平成19年 4月 第3回委員会(予定)
(主な報告事項等) ・出展展示報告、委員会の解散

海外日本庭園委員会

海外日本庭園委員会は、(財)都市緑化基金が海外の日本庭園の保全及び新造に関する検討を行う機関として設置しているもので、今回の博覧会では、出展する庭園の基本構想・基本計画レベルの庭園計画について審議したものである。

海外日本庭園委員会委員名簿（平成18年1月現在）

委員長	平野 侃三	東京農業大学名誉教授
委員	青木 保之	(財)首都高速道路協会理事長
	五十嵐 誠	(財)都市緑化技術開発機構専務理事
	大塚 守康	(社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長
	大貫 誠二	(財)都市緑化基金専務理事
	小川 陽一	国土交通省公園緑地課長
	勝浦 康之	(財)日本造園修景協会会長
	鈴木 誠	(社)日本造園学会海外の日本庭園調査委員会委員長
	田邊 昇學	(社)日本公園緑地協会会長
	成家 次男	(社)日本造園建設業協会会長
	平岡 順一	(財)国際花と緑の博覧会記念協会常務理事

平成18年1月27日 委員会開催

(主な報告・審議事項) ・博覧会出展までの経緯、出展のスケジュール及び体制
・出展庭園計画案

この委員会にて、以下の点について庭園計画案を修正することとした。

- ・動線（入口ー出口）の位置関係を反対にする。
- ・築山（富士山）の高さを3mから5mに変更する。
- ・八つ橋のデザインに工夫を凝らし、休憩舎とつなげる。
- ・建物（休憩舎）周辺は「真」のイメージに、段々畑を設ける里山には「草」のイメージでデザインを再考する。

日本庭園共同出展実行委員会 事業収支（見込み）

(単位:円)

区分	予算額	決算額	差額	備考
【収入】				
都道府県	43,500,000	43,500,000	0	5団体 負担金
政令指定都市	70,000,000	70,000,000	0	14団体 負担金
緑関係団体	71,900,000	71,900,000	0	14団体 負担金
民間企業等	36,597,000	29,597,000	▲ 7,000,000	6団体 協力金
収入合計	221,997,000	214,997,000	▲ 7,000,000	
【支出】				
調査設計	5,000,000	3,289,000	▲ 1,711,000	出展庭園の基本設計等
出展庭園	153,000,000	153,898,500	898,500	庭園整備・会期中の維持管理・引渡し補修工事
行催事運営	43,000,000	42,892,500	▲ 107,500	行催事、広報展示、接遇運営
業務管理	20,997,000	14,917,000	▲ 6,080,000	進行管理、調整事務等
支出合計	221,997,000	214,997,000	▲ 7,000,000	
収支差額	0	0		

共同出展団体及び協力企業等一覧

【共同出展団体】

- 国土交通省
- 千葉県
- 東京都
- 静岡県
- 愛知県
- 大阪府
- 札幌市
- 仙台市
- さいたま市
- 千葉市
- 川崎市
- 横浜市
- 静岡市
- 名古屋市
- 京都市
- 大阪市
- 神戸市
- 広島市
- 北九州市
- 福岡市
- (財) 日本造園修景協会
- (社) 日本公園緑地協会
- (社) 日本造園建設業協会
- (財) 日本緑化センター
- (財) 公園緑地管理財団
- (社) 日本造園組合連合会
- (財) 海洋博覧会記念公園管理財団
- (財) 都市緑化基金
- (社) ランドスケープコンサルタンツ協会
- (社) 日本家庭園芸普及協会
- (社) 日本公園施設業協会
- (財) 都市緑化技術開発機構
- (財) 国際花と緑の博覧会記念協会
- 愛・地球博バイオラング事業における協賛金等による整備に関する実行委員会

【協力企業】

- トヨタ自動車(株)
- 本田技研工業(株)
- 花王(株)
- ユニ・チャーム(株)
- (株) 赤塚植物園
- (社) 日本鉄鋼連盟
(愛知製鋼(株)、(株)クボタ、(株)神戸製鋼所、JFEスチール(株)、新日本製鐵(株)、住友金属工業(株)、大同特殊鋼(株)、トビー工業(株)、(株)中山製鋼所、日新鉄鋼(株)、(株)日本製鋼所、(株)淀川製鋼所)
- バンコク日本人商工会議所
- SONY(映像機器提供)
- タイ国際航空(輸送)

【協力団体】

- 富山県魚津市
- 在チェンマイ日本人会
- チェンマイ長期滞在者の会
- 独立行政法人国際交流基金 バンコク日本文化センター
- 国際伝統芸術家協会
- 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属緑地植物実験所
- 大賀ハス保存会

2006 年チェンマイ国際園芸博覧会
Royal Flora Ratchaphruek 2006
日本国屋外出展日本庭園報告書

発行 平成 19 年 3 月
ロイヤルフローラ・ラーチャブルック 2006
日本庭園共同出展実行委員会事務局
財団法人 都市緑化基金
〒102-0083
東京都千代田区一番町 10 番地 一番町ウエストビル 5 階
TEL 03-5275-2291



